

経営比較分析表（令和6年度決算）

栃木県南那須地区広域行政事務組合（事業会計分） 那須南病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド透訓	救臨へ輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	9,335	-	第2種該当	10：1

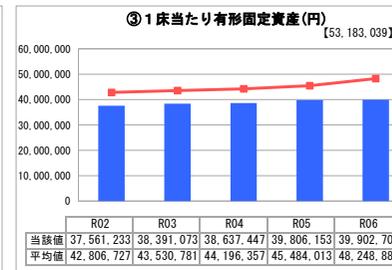
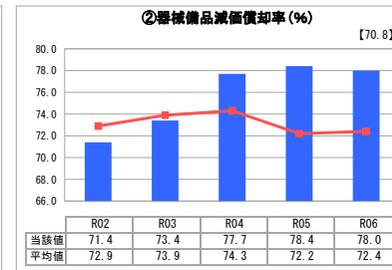
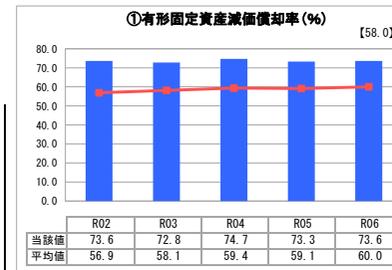
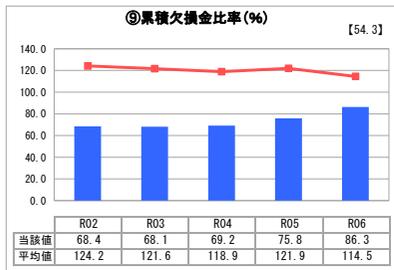
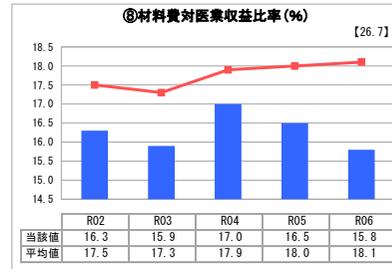
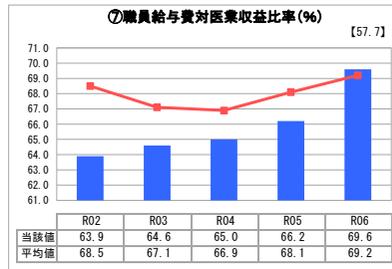
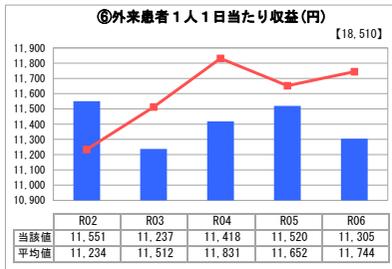
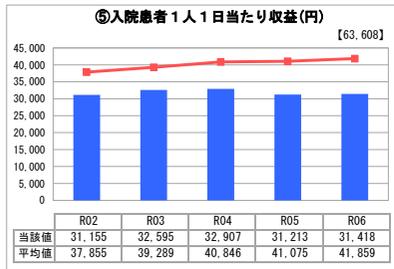
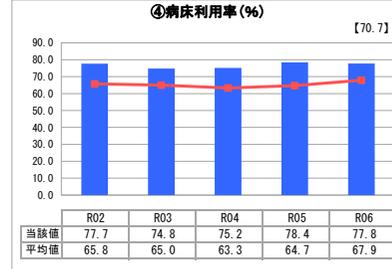
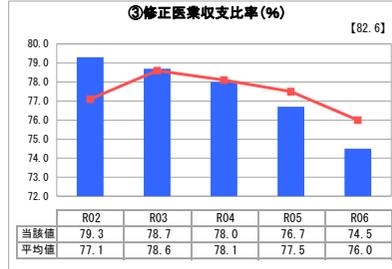
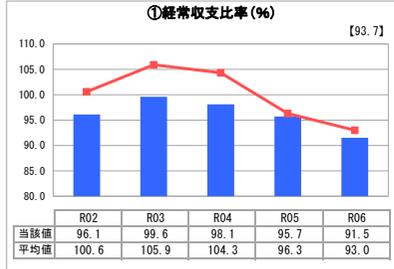
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
100	50	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	150
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
94	45	139

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
[]	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

業務効率化・連携強化 (従来の可視化・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

栃木県の救急医療体制において、当院は南那須医療圏で唯一の二次救急医療機関（病院群輪番制病院）として、24時間365日体制で救急患者の受け入れを行っている。
また、本地域で唯一、一般病床を有する病院として、入院・外来診療に加え、人工透析、人間ドック、へき地巡回診療などを実施し、地域医療の中核的な役割を担っている。
さらに、令和6年11月から訪問看護ステーションの運用を開始し、在宅医療の充実にも取り組んでいる。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は年々低下しており、令和6年度は、入院・外来収益が減少した一方で職員給与等が増加したことから、前年度比で4.2ポイント低下し、類似病院の平均を下回る結果となった。
また、医業収支比率及び修正医業収支比率についても、収益の減少に対して費用の抑制が限定的であったことから、それぞれ前年度比で2.0ポイント、2.2ポイント低下した。
病床利用率については、一般病床では上昇が見られたものの、療養病床の利用率低下の影響を受け、全体では前年度比0.6ポイント低下した。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び器械備品減価償却率はいずれも類似病院の平均を上回っており、当院の資産は相対的に老朽化が進行している状況にある。
特に施設・設備については、既存棟（2階建て）が竣工後35年、増築棟（地下1階・地上5階建て）が竣工後29年を経過しており、電気設備、給排水衛生設備、空調設備の一部には、竣工当初から継続して使用されているものもある。
これらの設備の多くは更新時期を迎えており、突発的な故障や医療提供への影響といったリスクが高まっている。
今後、安定的な病院運営を確保するためには、計画的かつ段階的に設備の更新・整備を進めていく必要がある。

全体総括

本地域では、栃木県内においても特に人口減少が急速に進んでおり、今後は外来・入院患者数の減少など、医療需要の量的な縮小が見込まれている。
一方で、施設や設備の老朽化が進行しており、医療安全の確保や診療機能の維持、災害対応力の強化といった観点から、更新に対する需要は一層高まっている。
さらに、医師・看護師等の人材確保が難しくなることと、給与費や物価高騰による経費増加も重なり、病院経営を取り巻く環境はますます厳しさを増している。
このような状況を踏まえ、将来の医療需要を見据えた病床数や機能の適正化、施設整備における優先順位の整理、業務の効率化や収支構造の見直しを進め、持続可能な病院経営について中長期的な視点で検討していく必要がある。

※1 類似病院平均値（平均値）]については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。